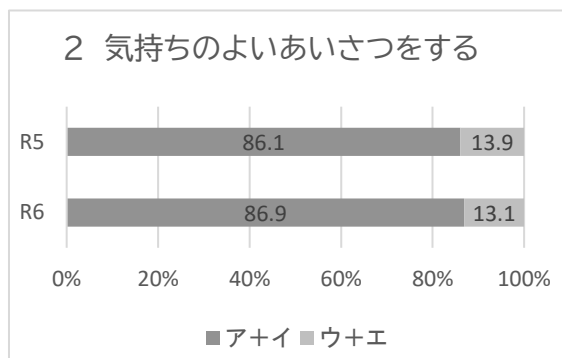
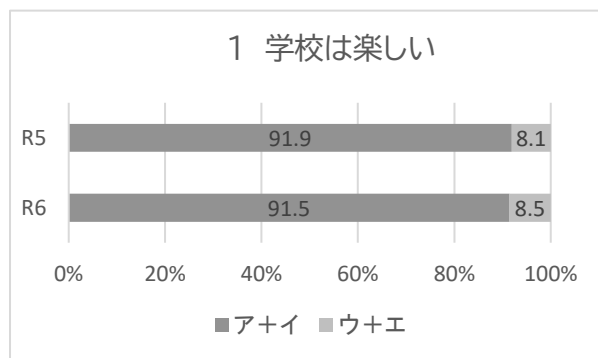
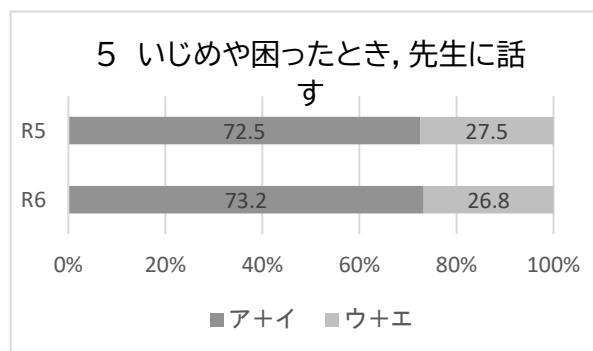
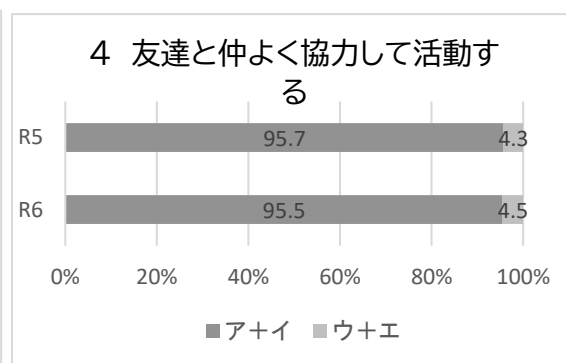
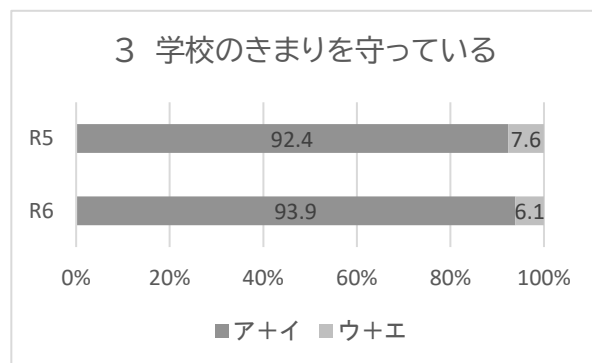


## 令和5年度・令和6年度 学校生活児童アンケート結果と考察



1の「学校生活の楽しさ」については、91.5%がア・イ(できている)と回答し、ほとんどの子どもたちは楽しく学校生活が過ごせていることが分かる。しかし、あまり楽しく思っていない児童が8.5%いることから、すべての子どもにとって学校生活が楽しくなるよう魅力ある教育活動を展開するとともに、家庭との連携を図りながら個々の子どもの思いや願いを受け止め、改善を図っていききたい。

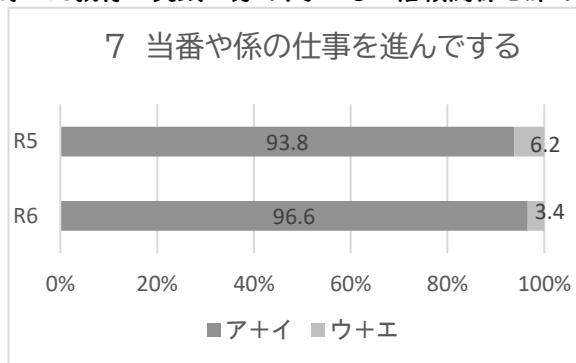
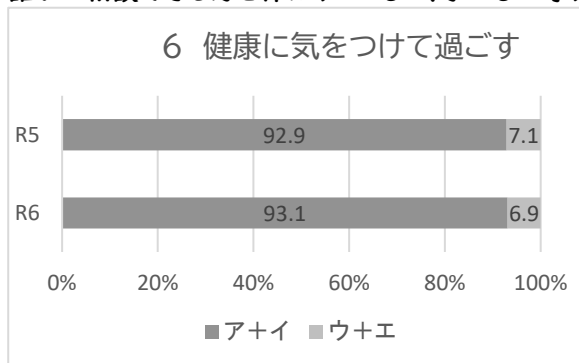
2の「気持ちのよいあいさつ」については、ここ数年、千松小学校の重要課題として年間を通して全校で取り組んでおり、ア・イと回答した子どもが86.9%と、昨年度に比べ若干上がっている。運営委員会を中心に「あいさつ運動」や「あいさつ週間」等の活動に取り組んでいるところであるが、学校全体で朝会時等を活用し、子どもたちにあいさつの大切さについて理解を図り、自分から進んで気持ちのよいあいさつができるよう啓発し続けていきたい。また、学校外でもあいさつの輪が広がっていくよう、家庭や地域と連携を図っていききたい。



3の「きまりを守る」については、93.9%がア・イと回答し、自己評価が大変高い項目であることが分かる。学校のきまりや身に付けてほしい生活習慣、学習習慣をまとめた「よくわかる千松小学校」や「光る子10か条」を各家庭に配布し、家庭でも協力いただき、年々定着してきている。日々の学級指導、朝会等の全体の場における生徒指導の積み重ねが大切であるため、今後も教職員が同一歩調で継続して指導を行い、子どもたちの規範意識をさらに高めていきたい。

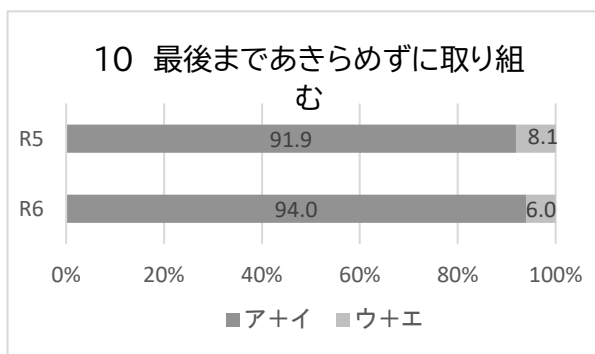
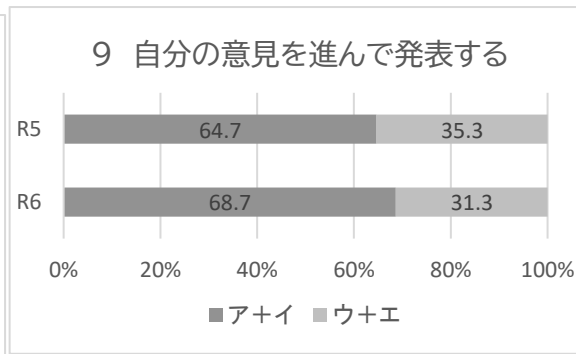
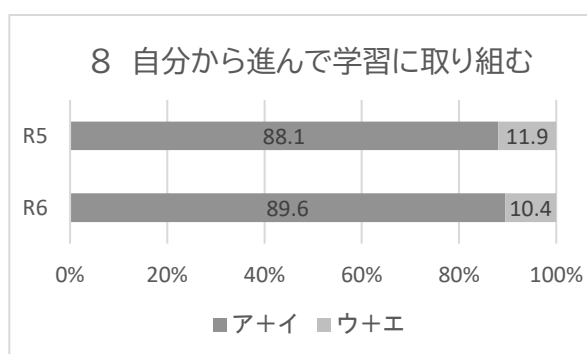
4の「友達と仲よく協力する」については、95.5%がア・イに回答している。子どもたちの毎日の生活において「友達と仲よく協力する」ことは、「学校は楽しい」や「いじめをなくす」に直結している。今後も、相手のことを思いやり、誰とでも分け隔てなく仲よく協力できる子どもを育てていきたい。

5の「いじめや困ったことを先生に話す」については、ア・イの回答が平成29年度の70.9%から年々上昇し、今年度は73.2%になっている。ただし、全項目の中ではア・イの回答が低い割合となっている。1の「学校は楽しい」や4の「友達と仲良く協力する」の評価が高いため、相談する必要性をあまり感じていないとも考えられる。一方で、数%は低評価している子どもがいることを認識し、「いじめ」の早期発見、早期対応のためにも、一人で抱え込まず誰かに相談できる力を伸ばすとともに、子どもに寄り添った教育の実践に努め、子どもの信頼関係を深めてい



6の「健康に気をつける」については、93.1%がア・イと回答し、昨年度よりも若干上がっている。子どもたち一人一人がコロナ予防を常に意識した学校生活を過ごし、定着してきていたことが影響していると考えられる。しかし、昨年度、コロナが5類に分類され、感染症に対する予防意識が少しずつ薄らいでいる印象もある。また、子どもたちの運動不足や肥満傾向は不安視される傾向にあり、外遊びの奨励や体力増進に努めていくことが必要である。保健学習の充実を図り、家庭との連携を図りながら自分の健康や安全を守っていくことができるようにしていきたい。

7の「当番・係活動」については、96.6%の子どもたちがア・イと回答している。多くの子どもたちが自分の役割をきちんと果たすことができおり、委員会活動や清掃活動、給食当番も責任をもって行うことができている。今後も人のために働く喜びや達成感を味わわせることを通して、子どもたちの学校生活の充実を図っていきたい。



8・9・10のどの項目も昨年度よりア・イの回答率が上がっている。これまでに、子どもたちが主体的で対話的な学習ができるように授業力の向上を図ってきており、その成果として主体的、意欲的に学習に取り組む多くの児童の姿が見られる。それが、数値にも現れているといえる。

9の「自分の意見を進んで発表する」については、昨年度に比べると高評価の割合が4%上がっているものの、他の項目に比べると低い評価であり、子どもたちが苦手意識をもっていることが分かる。今後も教職員の研修を充実させ、特に子どもたちが苦手とする「自分の意見を進んで発表する力」を伸ばすために、授業の中で子どもの表現力の伸長を図り、自分の意見を人前で堂々と表現できる子どもを育てていきたい。

今後も、発達段階に応じた様々な体験活動の充実や、達成感を実感できる活動の工夫を図り、主体的で対話的な学びを授業の中で実現できるよう努めていきたい。